

# ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2023

---

第22回 シーニックバイウェイ北海道推進協議会

令和6年12月9日

# ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023



Scenic Byway HOKKAIDO

平成20年度よりシーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト」の取り組みを実施。

2022

自転車ツーリング事業  
「自転車」をキーワードとする協働のまちづくり  
(萌える天北オロロンルート)



2021

～知らなきゃ損！2人目が無料～  
「ふたりぼっちパスポート」事業  
(十勝シーニックバイウェイ・トカプチ雄大空間ルート)



2020

～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採  
と資源のリユースプロジェクト (支笏洞爺二セコルート)  
オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト  
(萌える天北オロロンルート)



2019

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組み～  
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」  
(函館・大沼・噴火湾ルート)



2018

どうなん道の駅連携事業  
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)



2017

～地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」～  
ビューポイントパーキングの景観改善 (電線移設)  
(支笏洞爺二セコルート)



## <表彰>

●活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 14件】

●部門賞 3 件（指定ルートを対象）

### <エントリー部門>

美しい景観づくり賞 【エントリー数 3件】

活力ある地域づくり賞 【エントリー数 4件】

魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 5件】

※部門賞は、部門毎に 1 件とし最大 3 件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

●最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2023」1 件（指定ルートを対象）  
部門賞の中から 1 件選出（評価の結果によってはこの限りではない。）

## <評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

### －部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度を評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

## ▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



### ■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



### ■ 部門賞、最優秀賞

アドバイザー会議にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定





# 活動団体賞候補〔エントリー 14件〕

部門	No.	ルート名称	活動名称	点数	主なコメント
美しい景観づくり	①	東オホーツク シーニックバイウェイ	～“流氷を見ながらドライブを” 地域のおもてなし活動を継続中～ R334ガードレールの雪かきボランティア活動	36	◎ 流氷という地域の資源を来訪者のために、さまざまな団体が連携し持続的な取り組みとしているところが素晴らしい。除雪されて安全な道+この活動で景観もよくなり、一年を通して「秀逸な道」として楽しませているところもよい。
	②	函館・大沼・噴火湾ルート	～秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」～ 海を越えた“美しい景観づくり”の相互交流プロジェクト	9	北海道の玄関口として道外のルートとの連携は評価できる。今後、道内外の他ルートとの連携強化と、加えて、相互の子供達との交流が深まることに期待。
	③	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ	サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施	12	本来のシーニックが目指す基本姿勢だと思います。改めてドライブ景観と楽しい環境をシーニックとして提供できる活動が、必要な取り組みです！
	④	日高シーニックバイウェイ	～住民・観光客にとっての憩いの場・桜の名所を目指して～ エゾヤマザクラの維持管理及び補植活動	2	地域特有の樹木に着目し、来訪者を呼び込む取り組みになることを期待しています。
活力ある地域づくり	⑤	支笏洞爺二セコルート	～変動する大地との共生/ジオパークは「大地の公園」～ 生きている地球と生命とのつながりをジオパークで楽しく学ぶ	12	地域の魅力(観光資源)の発信のみならず、“噴火”の知識・経験をもって防災についてを次世代に繋げていく『火山マイスター』認定制度に感銘を受けた。
	⑥	萌える天北オロロンルート	流雪溝活性化プロジェクト	8	流雪溝は豪雪地帯にとっては、重要なインフラであり、その活用をしていることは評価できる。またボランティア(そと)とのコラボも今後期待できる。
	⑦	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート	～札幌シーニックの学びの場～ 「石山大学」	5	高齢者が生き生きと活動できる仕組みづくりが評価できる。なぜ男性のみなのか、その背景も伝わるようにすると良いと感じた。
	⑧	どうなん・追分 シーニックバイウェイルート	～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～ どうなんサイクルツーリズム推進事業	20	活動を継続されているなかで、サイクルツーリズムから地元企業である五勝手屋とのアスリート羊羹の商品開発まで、活動の枠組みが広がっていることが評価できる。
魅力ある観光空間づくり	⑨	東オホーツク シーニックバイウェイ	～地元自治体ともガッチリとタッグを組んだ景観向上活動～ R243シラカバ並木の清掃・剪定活動	2	地域の多彩な人たちが関わっている連携性、秀逸な道候補区間の活動で持続性や浸透性が高い。
	⑩	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ	「地域を“つなぐ”」くしろ・ねむろぐるっと!スタンプラリー	11	周遊する仕組みを地域自らが考えて展開していることが素晴らしい。また、シーニックカフェを活用することで、一般観光客にもわかりやすく親しみやすいのが良い。
	⑪	どうなん・追分 シーニックバイウェイルート	～伝承の祭り・史実磨き上げと継続的維持活動でつくる観光空間～ 地域の歴史・文化を活かした活動による観光魅力向上	4	伝統的な地域資源を活かした取組であり、長年継続していることが素晴らしい。
	⑫	天塩川シーニックバイウェイ	『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承	27	天塩川という北海道を代表する川とこれまでのシーニックの展開に加えて歴史を加えてくると益々魅力的な取り組みに成長していく予感がします。また、一見すると地味に見える活動でも地域へのアイデンティティが強く醸成されるものだ期待いたします。
	⑬	知床ねむろ北太平洋 シーニックバイウェイ	エコモビリティで楽しむ! 目指せ最東端ツアー	17	道東エリアに必要なモビリティであり、他のエリアとの連携も図られることによって道の活用が増えてくると思います。多様な利用の可能性の裾野の広がりとしての評価です。
	⑭	空知シーニックバイウェイ -体感未来道-	～ジオパーク×シーニックバイウェイ×かわたび～ 空知にしかない物語・体験 五感で巡るジオパークツアー	5	地域の特有の資源を活かした取組。かわたび等との連携性や浸透性、先進性が感じられる。

活動名称

～“流氷を見ながらドライブを”地域のおもてなし活動を継続中～  
R334ガードレールの雪かきボランティア活動

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

東オホーツクシーニックバイウェイ

## ①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

### ●活動の目的・目標：

- \* 冬期の知床を訪れる観光客や来訪者の皆さんに、ドライブする車窓から流氷景観を楽しんでもらおうという目的で、道路管理者や沿道の地域団体、民間企業等が連携した、おもてなしの取組み。
- \* 通常の歩道除雪ではガードレール部分に雪壁が残り、海への眺望が妨げられてしまうため、参加者の手作業での雪かきによって、道路から流氷への眺望景観を確保。

- 活動内容：機械除雪では取りきれないガードレールに残った雪を、ボランティアで集まった皆さんがスコップなどで除雪し、貴重な観光資源でもある国道からの流氷景観を確保する。

- 活動期間：平成20(2008)年度～令和5(2023)年度 ※継続活動中

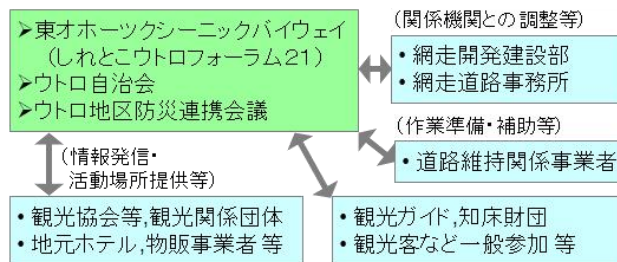
- \*実施場所：国道334号斜里町ウトロ区間（秀逸な道区間）



平成20(2008)年度から始めたおもてなしの取組みは、多くの皆さんの参加・協力をいただき継続中！

## ②活動の体制

- \* 東オホーツクシーニックバイウェイ（しれとこウトロフォーラム21）、ウトロ自治会、ウトロ地区防災連携会議、網走開発建設部、観光関係事業者、道路維持関係事業者など、約170人が参加。



<雪かき前>



<雪かき後>



<地元の子供たちも参加>

ちょうど車窓の高さからの眺望の支障になる雪壁を、皆が手作業で除雪してドライブ景観を確保



<感謝状を贈呈>

雪かき作業にも参加いただいている除雪事業者の皆さんに、日頃の感謝も込めて

## ③PRポイント

### 【総意工夫した点や苦勞した点】

- \* 地区防災計画の策定と連動させて「厳冬期の避難訓練」と併せた開催も実施。
- \* コロナ禍では開催方法を工夫した「ソーシャルディスタンスな雪かき」等も実施。

### 【活動による効果】

- \* 活動を通じて、道路事業の内容を地域の方に説明したり、道路の課題をヒアリングするなど、情報提供と情報共有の場としての効果も生まれた。
- \* 冬期の避難訓練と併せた実施やコロナ禍での取組みなどが認められ、令和4年(2022)には「手づくり郷土賞(大賞部門)」を受賞。



# 部門賞① 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 3件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	～“流水を見ながらドライブを”地域のおもてなし活動を継続中～ R334ガードレールの雪かきボランティア活動 【東オホーツクシーニックバイウエイ】	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪かきの効果もさることながら、雪かきを通じての地域課題の共有化とその改善計画の策定と実践を評価したい。活動の輪が広がってきていることも魅力的。同様の活動のルート内他地域への展開も目指していただきたい。</li> <li>・継続的に取り組まれており、評価に値する。</li> <li>・「厳冬期の避難訓練」と併せた開催により、昨今話題となっているBCPの観点からもとても有意義な取り組み。</li> <li>・子供から大人まで参加出来る活動によって、東オホーツクの景観の良さを身をもって広めることが出来る。</li> <li>・流水という北海道ならではの景観を車窓からも見えるようにという明確なターゲットに向けての取り組みにホスピタリティを感じる。また、極寒の中でもこれだけたくさんの参加者がいらっしやるのはすごいと思う。</li> <li>・厳寒期における活動による景観の維持、継続した活動として続いていることに価値があり敬意を表したい</li> <li>・地元住民とともに地道な活動を継続していると共に、防災やコロナなどの新たな課題にも取り組んでいる点が評価できる。</li> </ul>
2	～秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」～ 海を越えた“美しい景観づくり”の相互交流プロジェクト 【函館・大沼・噴火湾ルート】	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田との連携プロジェクトであり、SBWの広域展開として意義深い。</li> <li>・本州地域との交流という新たな視点</li> <li>・能代市と函館市の広域な連携による取り組みであり、相互参加に重きを置くことで両自治体にとってメリットを享受できる取り組み。</li> <li>・植栽活動といった活動は単なる景観作りだけでなく、「SX」の観点からも取り組み意義の高さを感じられる。</li> <li>・相互交流は、美しい景観づくりの動機として連携性や新規性においては大変評価されますが、持続性や拡張性などにおける明確な強さが欲しい。</li> <li>・地域住民の方々と行政とが連携し、シーニックバイウエイの目指す美しい景観作りの活動を海（地域）を越え実践していることに重要性を感じる。</li> <li>・道外の風景街道の取り組みとの相互交流を通じた景観づくりのモデルケースとして、今後、他団体への展開も期待できる先進性と拡張性を有している。</li> </ul>
3	サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ】	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募資料だけでは内容、工夫点、成果などがとよく理解できなかった。</li> <li>・シーニックバイウエイとしての本流の活動成果の再構築は評価に値する。</li> <li>・観光産業が発達している北海道においては、「SX」の本質ともいえる「持続可能な取り組み」は必要不可欠であり、重要な取り組みの一つ。</li> <li>・広域な北海道においては標識の交換や、舗装の改善など課題が相当数ある中で、「優先順位」を決めて実施することで計18箇所での改善に成功しており大変素晴らしい取り組み。</li> <li>・具体の事象は見えにくいですが、ルート景観をかなり分析されてその改善に努められていることがわかるマスタープランと部分改善を継続していけば、とても上質な景観が形成されるものと思う。</li> <li>・景観づくりの活動の灯を消すことなく次世代に続けていくことの重要性を認識し、マスタープランの作成に取り組むことは先進的な活動かつ重要なことである。</li> <li>・ルート内で景観診断を計画的・戦略的に進める持続可能な仕組みを構築し、実際に効果を上げる等、その実効性の高さを評価できる。</li> </ul>
4	～住民・観光客にとっての憩いの場・桜の名所を目指して～ エゾヤマザクラの維持管理及び補植活動 【日高シーニックバイウエイ】	対象外	

# 美しい景観づくり部門賞

活動名称 **サステナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施**

エントリー部門 **美しい景観づくり**

ルート名称 **釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ**

## ①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

### ●活動の背景

- ・H19の景観診断は経験や知識が少なく、改善不可能な課題箇所も多く抽出していた
- ・H20のルート景観づくりマスタープランは、持続的改善の仕組みがなく形骸化した
- ・H25からの道路附属物改善では、**時限的で持続可能な改善計画を構築**して試行  
⇒ **成功!** 5年間で63箇所を改善 ⇒ H30年度に「美しい景観づくり賞」をいただく

### ●活動の目的・目標

- ・時限的で持続可能なルート景観マスタープランを再構築し、継続的に景観を改善する

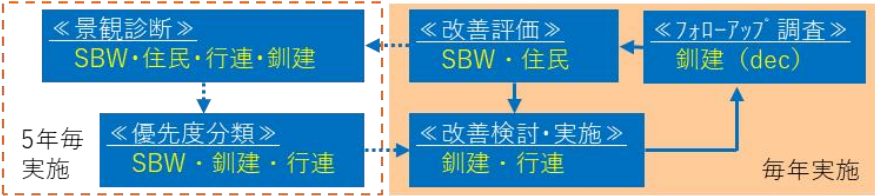
### ●具体的な取り組み（活動期間と活動場所）

- ・R05に全エリアの景観再診断が完了し、**新しいマスタープランが完成**（表1）
- ・再診断後のエリアで、改善が実施されていることをフォローアップ調査で確認

表1 新しいルート景観づくりマスタープラン構築に向けた取り組み

年度	景観再診断	景観改善の実施				フォローアップ調査
		弟子屈	阿寒湖	中標津	釧路湿原	
H30	弟子屈エリア	2箇所	診断前	診断前	診断前	全箇所実施
R01	阿寒湖エリア	9箇所		診断前	診断前	全箇所実施
R02	※COVID-19 で延期			診断前	診断前	全箇所実施
R03			2箇所	診断前	診断前	全箇所実施
R04	中標津エリア	1箇所		2箇所	診断前	全箇所実施
R05	釧路湿原エリア			2箇所		全箇所実施
新しい「ルート景観づくりマスタープラン」が完成						

## ②活動体制



## ③PRポイント

【工夫した点や苦勞した点】

### ●H20の景観課題箇所と新規課題箇所(秀逸な道など)の合計200箇所を再診断

- ・改善不可能な課題箇所を除外しつつ、秀逸な道などの新たな課題箇所を抽出

### ●再診断の結果を踏まえた優先度分類と対応ルールの明確化（表2）

- ・**優先対策検討箇所** - 改善検討・実施（改善できない場合には理由を明示）
- ・**対策検討箇所** - 将来的な改善に向けた現地確認、情報収集
- ・**経過観察箇所** - マスタープランの景観課題箇所に残して経過観察
- ・**課題箇所から除外** - マスタープランの景観課題箇所から除外

### ●持続的に実施するための時系列的なルール

- ・毎年実施する項目と、5年に1回実施する項目をルール化し、改善を継続
- ・フォローアップ調査と評価を毎年実施し、地域の景観改善意欲を持続

【活動による効果】

### ●令和5年度時点で改善が完了した箇所数

優先対策検討箇所：14箇所 対策検討箇所：3箇所 経過観察箇所：1箇所



表2 景観再診断の実施箇所と優先度に応じた分類結果

エリア名	課題箇所の再診断		優先対策 検討箇所	対策検討 箇所	経過観察 箇所	課題箇所 から除外	改善完了 (R5時点)
	H20抽出	新規箇所					
釧路湿原	29箇所	1箇所	1箇所	5箇所	13箇所	11箇所	0箇所
阿寒湖	21箇所	1箇所	1箇所	6箇所	6箇所	9箇所	2箇所
弟子屈	33箇所	74箇所	22箇所	4箇所	10箇所	71箇所	12箇所
中標津	10箇所	29箇所	9箇所	13箇所	10箇所	7箇所	4箇所
合計	93箇所	105箇所	33箇所	28箇所	39箇所	98箇所	18箇所



# 部門賞② 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー4件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	～変動する大地との共生/ジオパークは「大地の公園」～ 生きている地球と生命とのつながりをジオパークで楽しく学ぶ 【支笏洞爺二セコルート】	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地味だけれども大事な活動を継続されていることに敬意を表したい。</li> <li>・有珠山火山口原探索ツアーといった、他自治体との差別化が図れる希有な取り組み。</li> <li>・火山防災活動はBCPの観点からも高く評価されるべきもの。</li> <li>・体験型ツアーによって、洞爺湖周辺の魅力や学びを提供できるため地域の認知度や活力増強にもつながる。</li> <li>・ジオパークとしてのプログラムとシーニックバイウェイの活動との関係性が読み切れなかった。</li> </ul>
2	流雪溝活性化プロジェクト 【萌える天北オロロンルート】	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化する流雪溝と人口減少と高齢化によりますます雪かきが難しくなりつつある中でのユニークな発想に基づく活動。成果の表現がまだまだ不十分？</li> <li>・シーニック団体が複数自治体の流雪溝を連携し、商品化にトライしたのは評価できる。</li> <li>・豪雪地帯におけるウィークポイントを、「留萌流雪溝の日」とすることで地域の一体感を生むことができている。</li> <li>・留萌市内の旅行会社と連携することで、地域の魅力を伝える最高の手段（旅行商品）を開発することが出来活性化につながると思う。</li> <li>・高齢化や人口減少で日常的な生活サービスが減退する中、共助による除雪は大変興味深い。萌え天ルートが、自治体の橋渡しになっている点も注目し値する。</li> <li>・関心の的になりづらい流雪溝に焦点をあてたコンテンツ開発が素晴らしい。地域の人たちの交流も盛んになるよう期待する。</li> <li>・流雪溝利用率が低下しつつある中、新しい視点から流雪溝の価値を再評価し、その活性化に地域全体で取り組んでいる点が評価できる。</li> </ul>
3	～札幌シーニックの学びの場～ 「石山大学」 【札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート】	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面白い取り組みだと思うが、どうして男性限定なのかよくわからない。年齢制限も高齢者の社会参加と元氣化という観点からの理由かもしれないがよくわからない。活動を広げるうえでも再考すべきではないだろうか。</li> <li>・活動が熱心である。</li> <li>・定年退職後の「セカンドライフ」として学びの場を設けることは、高齢化が進む本国の在り方としてとても参考になる取り組み。</li> <li>・「札幌開発建設部」「札幌市立大学」そして「石山大学」と官民連携することで地域の活性化につながると感じた。</li> <li>・地域の資源を見直し、学びの場としてシーニックの活動につながっているとことが評価できる。</li> <li>・定年退職後の男性が生き生きと活躍できる場を創出しており、他エリアの高齢世代にも勇気を与える事例である。シーニックバイウェイの活動にも実質的な貢献を果たしている点も評価できる。</li> </ul>
4	～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～ どうなんサイクルツーリズム推進事業 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地道だけれど着実に成長している。今後さらに期待したい。</li> <li>・サイクルツーリズムにおいて、企業連携や商品開発という新たな方向性は評価できる。</li> <li>・サイクルツーリズムでは、地域の産業や観光に触れることだけでなく、SDGsの観点からも取り組み意義は非常に高いと思う。</li> <li>・国際大会の開催に夜知名度の向上は、「持続可能な」地域活性化の手段としてメリットが享受できる。</li> <li>・バス会社、鉄道会社の巻き込みによる活動の盛り上げは、ツーリズムの活性化のみならず、交通全体への問題提起にもつながりうると思います。サイクルルートの充実もうれしいですね。</li> <li>・サイクルツーリズムとの親和性は高く、引き続き活動を盛り上げていただきたい。</li> <li>・公共交通機関と連携し、自転車と公共交通を組み合わせた周遊ルートを構築している。併せて、地元の老舗企業とも連携し、商品開発を実現する等、地域経済の活性化に貢献している点も評価できる。</li> </ul>

# 活力ある地域づくり部門賞

活動名称 流雪溝活性化プロジェクト

エントリー部門 活力ある地域づくり賞

ルート名称 萌える天北オロロンルート

## ①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

### ●活動の目的・目標：

- ・苫前町古丹別地区流雪溝は、高齢化や空き家・空き店舗の増加等から流雪溝利用率が低下し、沿道に積もった雪山により日常生活・道路交通に支障をきたす状況である。
- ・平成27年度より雪処理の担い手確保に向けた「投雪ボランティアツアー」とその発展形である「流雪溝インフラツーリズム」の商品化を試行し、交流・関係人口の拡大のアプローチから課題解決を試みた。
- ・コロナ禍を経て、現在は町内の共助力の底上げを図るとともに、同様の課題を抱える増毛町との地域間共助を促進することで、流雪溝の活性化を通して住み続けたい地域を両町で目指す。

### ●活動内容 平成27～30年度 1) 既存協議会に、他団体（社協・消防・道路管理者等）も加えた拡大意見交換会（「流雪溝を考える会」）

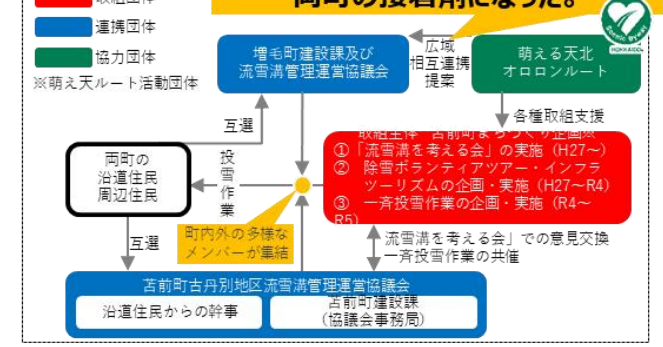
- 活動期間：
- 令和元～2年度 2) 雪処理の担い手を受け入れるための「投雪ボランティアツアー」の試行
  - 令和3～4年度 3) 流雪溝を活用したインフラツーリズムの商品化に向けた試行
  - 令和5年度～ 4) 流雪溝運営協議会の再編／5) 古丹別地区内一斉投雪作業の実施
  - 6) 増毛町との留萌管内一斉投雪作業実施

《「流雪溝」とは？》

- ◆ 車道除雪で歩車道境界に寄せられた雪を沿道住民が各自で流雪溝に投雪し、流水で河川まで移動処理するインフラ。そのため供用区間でのダンプ排雪は、基本的に行われない。
- ◆ 道内28市町村36箇所のべ延長約174kmの流（融）雪溝が供用中で、多くは第5期北海道総合開発計画（昭和63年）「ふゆトピア事業」の一環で整備。
- ◆ 流雪溝の運用方法は、供用時から続く流雪溝管理運営協議会で検討される。

新型コロナウイルス感染症移行  
（令和5年5月8日～）

## ②活動の体制 【創意工夫した点】萌え天ルートが両町の接着剤になった。



### 流雪溝を活用したインフラツーリズム商品化

#### 投雪作業

#### インフラ見学

実施日：令和2年2月15日～16日  
プログラム：流雪溝関連施設の見学、地域住民との投雪作業、漁港見学等

【創意工夫した点】旅行企画・実施は地元旅行会社とタイアップ

### 管内一斉投雪作業（「留萌 流雪溝の日」）

#### 古前町古丹別

#### 増毛町

実施日：令和6年1月27日～28日  
プログラム：交互日開催による地域住民との投雪作業等

【創意工夫した点】相互参加で、人材と一斉投雪作業の運営ノウハウを共有

## ③PRポイント

- 【創意工夫した点】①既存協議会の枠を越えた多様なメンバーで流雪溝活用方策を検討／②「インフラツーリズム」の概念を採用し、留萌市内の旅行会社と協働で旅行商品を開発（①・②で、第16回土木学会北海道支部地域活動賞受賞）
- 【苦労した点】コロナ禍により活動方針の転換に迫られたが、「内（うち）の力」の底上げと地域間共助への気づきを得た。
- 【活動による効果】①管理運営協議会を「官から民」主導に再編／②同様の課題を抱える地域と連携を促進し、人口減少下の流雪溝の持続可能性と地域の在り方（流雪溝版コパ・外・プラス・ネットワーク（地域間共助・連携による流雪溝を核とした雪に強いまちづくり））を考える同志と発想を得た。9



# 活力ある地域づくり部門賞

活動名称

～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～  
**どうなんサイクルツーリズム推進事業**

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

**どうなん・追分シーニックバイウェイルート**

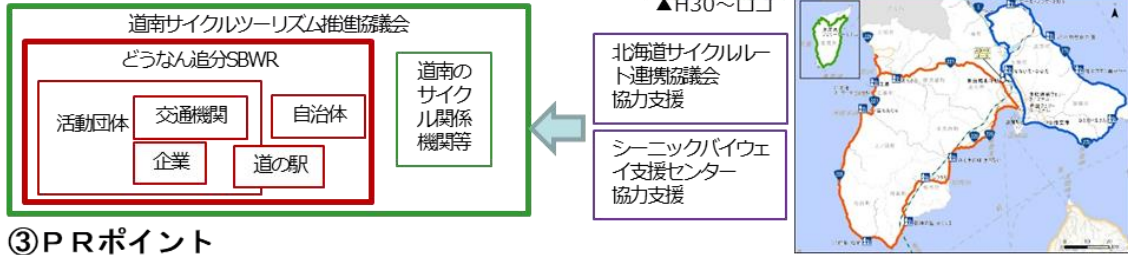
## ①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標： ルート最大の魅力である歴史・文化に触れながら交通過疎地帯の道路活用・観光・SDGsに着目し広域のサイクルツーリズムを国内外に向け進め、官民連携で交流人口の拡大・地域経済の活性化を図る。また地域全体のサイクリングの受入・走行環境整備と情報発信を行う。

- 活動内容： ・2018年（H30）協議会設立。道の駅等にラック等整備。道南連携。  
 ・2019年（R1）海外（台湾）との連携ツアー開催。エリアサイクルガイド養成講座開催。  
 ・2020年（R2）「マグロ女子会」とコラボ青森連携ツアー開催。コースマップ作成。  
 ・2021年（R3）全国初自転車搭載バスと道南いさりび鉄道とツアーで連携。公共交通に自転車をそのまま搭載し移動し、周遊する継続的な実証及び試行を行った。  
 ・2022・23年（R4～5）企業連携として五勝手屋とアスリート羊羹開発。  
 ・2023年（R5）北海道サイクルルート10番目のルート登録。

●活動期間：2017年度～2023年度（継続中）

## ②活動の体制



## ③PRポイント

### 【苦労した点や工夫した点】

- ・地域の自転車愛好家プレイヤーの協力不足。支援協力への普及活動の強化。
- ・地域や企業への理解や認知を得るための自治体を絡めた全体への情報共有。

### 【活動の成果】

- ・サイクルツーリズムの活動が地域に浸透し、函館バス・道南いさりび鉄道等公共交通機関・道の駅等の休憩施設・宿泊施設等にも着実に拡大した。
- ・地域老舗企業と連携し、アスリート羊羹を開発。地域経済に活動を繋げる。

### 【今後の活動予定等】

- ・2024年9月にアイアンマンジャパンみなみ北海道大会開催。国際大会の開催により地域の知名度の向上、大会の継続開催及び地域の再生と経済効果の向上。
- ・今まで積重ねた連携事業を実践として活用し、新たな課題への取組に繋げる。



▲H30道南連携モニターツアー



▲R1台湾（海外）連携サイクルツアー



▲R2青森（マグ女）連携サイクルツアー



▲R1～自転車搭載函館バスの活用 ツアー時ほか



▲R3～道南いさりび鉄道自転車搭載 ツアー時（七重浜駅～札刈駅間）



▲R4～5 五勝手屋（創業150年）地域老舗との商品開発



▲R6.9国際大会開催決定



▲アスリート羊羹と休憩時



# 部門賞③ 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	～地元自治体ともガッチリとタッグを組んだ景観向上活動～ R243シラカバ並木の清掃・剪定活動 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ継続していただきたい。</li> <li>・シラカバ並木の清掃活動、樹木の剪定活動に地域やその他多くの方が関わっており、参加者が無理なく活動出来る計画を立て、実施しているところが評価出来る。</li> <li>・自治体との連携によって、観光客へのPRはもちろんのこと地元住民に対して改めて魅力を実感してもらえようような取り組み。</li> <li>・多くの人の関心呼び、ルートの重要性を認識することにつながる活動を続けていただきたい。</li> </ul>
2	「地域を“つなぐ”くしろ・ねむろぐるっと！スタンプラリー 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ルートが連携してスタンプラリーという古典的手法を用いながらも成果を上げていて評価できる。いろいろ連携すると相乗効果が期待できることの好事例。共有化を図りたい。</li> <li>・継続的な活動が発展的に展開されており、評価に値する。</li> <li>・「空港」「道の駅」「地元企業」を一連の導線に結ぶスタンプラリーは、アイデアとして大変魅力的。</li> <li>・実際に自分の足で回ること、地域の魅力に気づいてもらえる可能性があり、今後も参加企業を増やして大がかりなスタンプラリーにしてほしい。</li> <li>・スタンプラリーを通じて、多くの参加者がルートを走り、地域経済にも貢献し、さらに、シーニックを広めた取組の効果は大きい。</li> <li>・スタンプラリーは地域の周遊という意味では有益なことである。その先の目標を見出していただければ更なる効果が期待できるのではないか。</li> </ul>
3	～伝承の祭り・史実磨き上げと継続的維持活動でつくる観光空間～ 地域の歴史・文化を活かした活動による観光魅力向上 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典的手法ながらも成果を上げている。地域の観光要素をSBWがつなげて地域の魅力向上、見える化に貢献しているのではないか。</li> <li>・インフラ整備の追い風もあり、観光地としての注目度も上昇していると感じる。歴史ある祭りなど歴史の重要性を広めることの出来る取り組み。</li> <li>・地域の文化や歴史を知ってもらえる活動として価値がある。活動の結果どのような効果や地域の発展がみられるのかを分析してほしい。</li> </ul>
4	『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承 【天塩川シーニックバイウェイ】	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの大きな活動がうまく連携しているかどうか不明で、残念。</li> <li>・松浦武四郎を仲立ちとした松阪市との連携</li> <li>・道内だけでなく、道外へも働きかけ、広い範囲で天塩川、そして地域をPRする取り組みを行っているところが評価できるポイント。</li> <li>・沿線の活動を「天塩川」に沿って展開することは重要。連携軸ができることで地域間の情報交流や交流が生まれれることに重きを置いた活動として続けてほしい。</li> <li>・天塩川を軸に、多様な地域資源を生かした観光ツアーを開発・運営すると共に、参加者との会話を重視し、自分たちの地域の良さを再発見しており、更なる発展を期待させる。道外の関連地域との連携も図り、道内・道外の複眼的な観点から観光空間づくりを進めている点も評価できる。</li> </ul>
5	エコモビリティで楽しむ！目指せ最東端ツアー 【知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ】	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ルートの連携、エコモビリティとアクティビティの連携、通行空間の整備など多様な要素をよく整理し実施したことは評価したい。効果はどのように</li> <li>・ミニベロを使って、自転車と公共交通の親和性を高める取り組みは注目できる。</li> <li>・地域資源を活かしたモニターツアーによって魅力ある観光空間づくりが実現されている。</li> <li>・意見交換会を通じて地域住民や観光ガイドからのからの要望を洗い出すことで、よりよい観光空間作りが体現されている。</li> <li>・道東の広大なエリアを移動を楽しむ場所として、演出することに意義を感じる。モビリティーツーリズムの発展を祈りたい。</li> <li>・フットパスやカヌー、サイクリング、エコモビリティなど多様な手段による広域の観光空間のエコブランディングは、北海道を代表する知床・ねむろエリアに相応しい。このような取組が公共交通の新たな活用にもつながってくるものと思われる。</li> </ul>
6	～ジオパーク×シーニックバイウェイ×かわたび～ 空知にしかない物語・体験 五感で巡るジオパークツアー 【空知シーニックバイウェイ-体感未来道-】	対象外	

# 魅力ある観光空間づくり部門賞

活動名称 『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 天塩川シーニックバイウェイ

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 目的・目標/ルートのメインリバー『天塩川』を軸に、ルート内の資源を繋げ、地域の歴史・文化に触れ・学び、地域特性を活かした**新たな広域的な観光周遊ルートの商品造成と地域経済の活性化**へ繋げる  
⇒【観光客】魅力的で多様なコンテンツの提供による再来訪(リピーター)への期待、地域ファンの増加  
【地域(ルート)】観光消費の増大、雇用の確保(ガイド等)、地域への愛着の醸成(魅力の再確認と共有)

- 天塩川は、北海道遺産に認定。
- 当ルートでは、「道(Road)×川(River)×鉄道(Rail)」の**3つのR**を繋ぐ旅を推奨。
- 松浦武四郎は「北海道」と命名した人物で、音威子府村に「命名の地」がある。
- 天塩川については、武四郎が調査した結果を「天塩日誌」でまとめられている。

- 活動内容/**道内**:道北地域への来訪を意識しながら、ルートメンバーが主体となって地域資源と歴史について紹介・PR、ツアー運営を行った。  
**道外**:武四郎の生誕の地がある松阪市において、「天塩川」を通じて地域を知ってもらうための広報・PRを行った。

**武四郎まつり** とき 令和6年2月25日(日)  
ところ 三重県松阪市「松浦武四郎記念館」他

《配布・PR》天塩川シーニックと北海道遺産でPRブースを設け、シーニックバイウェイの取組みや北海道遺産(天塩川)の紹介、北海道のドライブ観光などのPRを行った。  
《パネル展示》シーニックドライブマップや松浦武四郎足跡、天塩川の歴史等の紹介のパネル展示を行った。  
《特産品販売》音威子府村の活動団体nociw(ノチウ)の協力により、天塩川流域地域の商品の販売(音威子府村、名寄市、美深町)や、パンフレットの配布などを行った。



## ②活動体制



**道内 インフラツーリズム モニターツアー** とき 令和5年9月30日(土)・10月1日(日)  
ところ 下川町～名寄市～美深町(札幌発着) ★インフラ/サンルダム、天塩川

《受け入れ》ツアー行程は、ルートメンバーと旅行会社、開発局で共に創り、各箇所の紹介や体験は各地域の担当者がリレー式で担当した。



《地域のおもてなし》天塩川SBW(9市町村)のおもてなしとして、特産品を参加者へ提供。ご当地クラフトビールやジン、天塩川の水を使用した飲み物、地域食材を使用した商品を試食を戴いた。



## ③PRポイント

- 【総意工夫した点】
- ・各地域の個別の紹介・PRではなく、全体で「天塩川」を軸に繋がりのある企画とした。
  - ・参加者・来場者との会話できる時間を重要視し、交流・コミュニケーションを多くとれるよう工夫した。
  - ・ツアー参加者に試飲・試食いただいたものは、ツアー中に立ち寄れる先で購入できることを説明、PRを行った。★できないものは逆に特別感あり!
  - ・ブースもツアーも「今だけ・ここだけ」の体験や情報を多くし、特別感のある時間を提供した。

## 【活動による効果(成果)】

- ・北海道に興味のある人・住んでいた人、天塩川でカヌーした人、音威子府蕎麦を買い求めてくる人など様々な想いで立ち寄ってくれ、会話を通じて**地域の良さを知った**。
- ・松阪市民の武四郎に対する想いや知識も豊富で、北海道との繋がりを感ぜられた良い時間であり、**広報・PRを継続**して行っていくことの重要性を感じた。
- ・「サンルダム」(インフラ)が観光コンテンツ(資源)になることを、**ルート内のメンバーで共有**でき、新たな観光の可能性を感じた。
- ・地元ガイドの育成などの重要性も感じるとともに、おもてなしの時間(飲食の提供)が好評価であったため、**モチベーション向上に繋がった**。

## ▼活動団体賞〔エントリー14件〕

～“流氷を見ながらドライブを”地域のおもてなし活動を継続中～  
**R334ガードレールの雪かきボランティア活動**  
【東オホーツクシーニックバイウエイ】

## ▼部門賞

### ①美しい景観づくり部門賞〔エントリー3件〕

**サステナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施**  
【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ】

### ②活力ある地域づくり部門賞〔エントリー4件〕

**流雪溝活性化プロジェクト**  
【萌える天北オロロンルート】

～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～  
**どうなんサイクルツーリズム推進事業**  
【どうなん・追分シーニックバイウエイルート】

### ③魅力ある観光空間づくり部門賞〔エントリー5件〕

**『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承**  
【天塩川シーニックバイウエイ】



## ▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」 アドバイザー会議から次のプロジェクトが推薦

### サステイナブルな景観づくりマスタープランの 再構築と実施

#### 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ】

##### ■選出理由及び今後の発展に向けての期待

- ・持続可能という言葉をシーニックに置き替え、「どうやって次世代に繋げていくかを検証し、景観改善方法をマニュアル化した」ということを考えると、高い評価を与えても良いと思われる。
- ・考え方を作り上げたという点が良い。
- ・他の活動とタイプが異なっており、実直に繰り返し行われている活動である。
- ・シーニックの原点に立ち戻ったという点を評価したい。